

敷地調査のポイント

実習課題「職員および学生のための休憩スペースとしてふさわしいランドスケープデザインの提案」を念頭に、自由なアイデアでデザインのヒントになる情報を集めましょう。敷地や敷地の周辺には、どのような問題点があるだろうか？どのような資源が隠されているだろうか？何か不足しているものはあるだろうか？

現地調査

現地での調査時間は限られているので、効率的に調査しましょう。

- 1 : 20 敷地の境界線の確認
- 1 : 30 敷地の大きさの確認
 - ・敷地の端から端まで巻き尺を引いて、何 m あるのかを確認。
- 1 : 50 空間における身体感覚をリセット
 - ・敷地の端に立ち、3m、5m、10m 先がどこになるのかを予想し、巻き尺で確認。
 - ・自分の歩幅（一步）は何センチになるのか？
 - ・敷地の境界線上を歩いて、各辺を何歩で歩けるか記録。
- 2 : 10 平面図やスケッチブックに現場の情報を書き込む（あれば、同時にデジカメで記録）
 - ・建物の柱や開口部（窓や扉）の位置
 - ・地表面や地形の状態
 - ・樹木や設置物等
 - ・利用のされ方
 - ・景観の見え方（立ったり、座ったり、歩いたりしながら）
- 2 : 40 スケッチブックに周囲の情報を書き込む（あれば、同時にデジカメで記録）
 - ・周辺からアクセス可能なルート
 - ・キャンパス内の休憩スペースの位置と状況
 - ・中庭にいる人の建物内からの見え方
- 3 : 50 集合
 - ・製図室に集合し、来週の説明。その後、解散

敷地分析の結果のまとめ（宿題）

敷地分析の結果を、できる限り視覚的に表現してまとめましょう。

- ・中庭内の「資源」と「問題点」、「不足しているもの」
- ・中庭内および外からの動線
- ・中庭にいる人の建物内からの見え方
- ・キャンパス周辺の休憩スペースの分布と状況
- ・その他

宿題の提出

次の授業中に提示し、確認を受ける。

敷地分析結果の空間的表現例

敷地と敷地周辺の分析には、例えば、

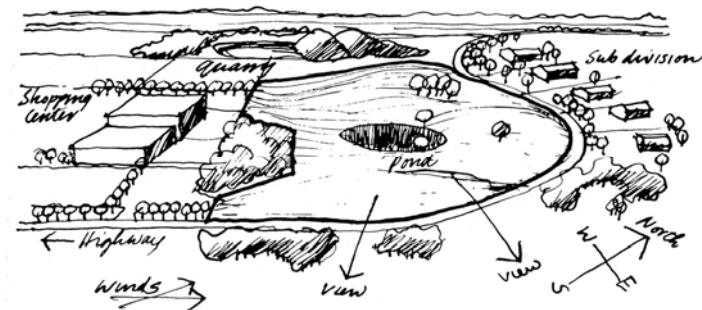
景観条件（地形、眺望、シンボル）

自然条件（植物、土壌、地質、水分、日照、気候）

人文条件（歴史、文化、アクセス、アメニティ、安全、利用）

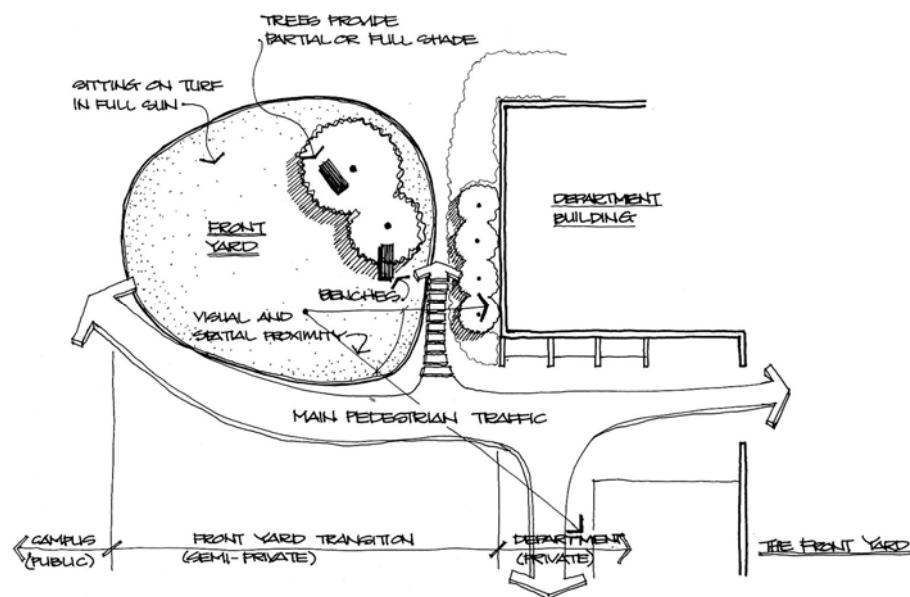
等々、様々な条件が考えられる。グラフや表によって表現される情報もあるが、空間情報と結びつけられて初めて意味を持つものも多い。敷地分析の結果を空間とうまく結びつけて表現した例を以下に示すので、参考にしてほしい。

1. Michael Laurie による敷地分析の例¹⁾

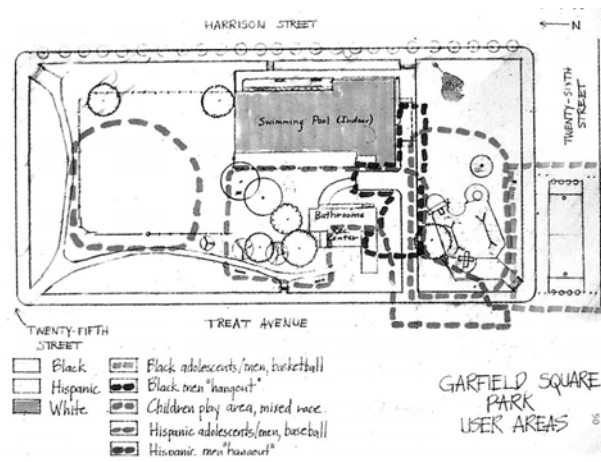


景観資源である池や敷地内から眺望可能な方向が示されている

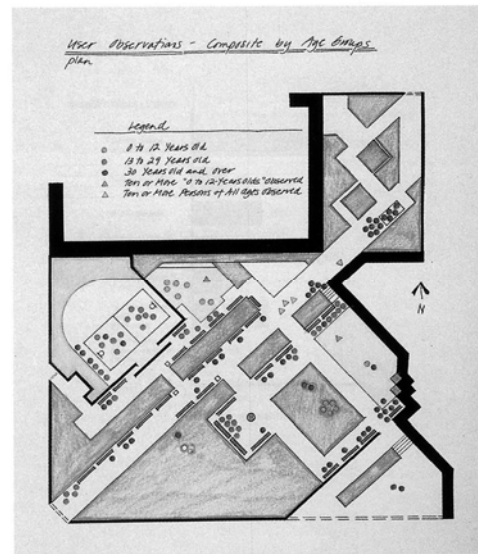
2. Clare Cooper Marcus による敷地分析の例



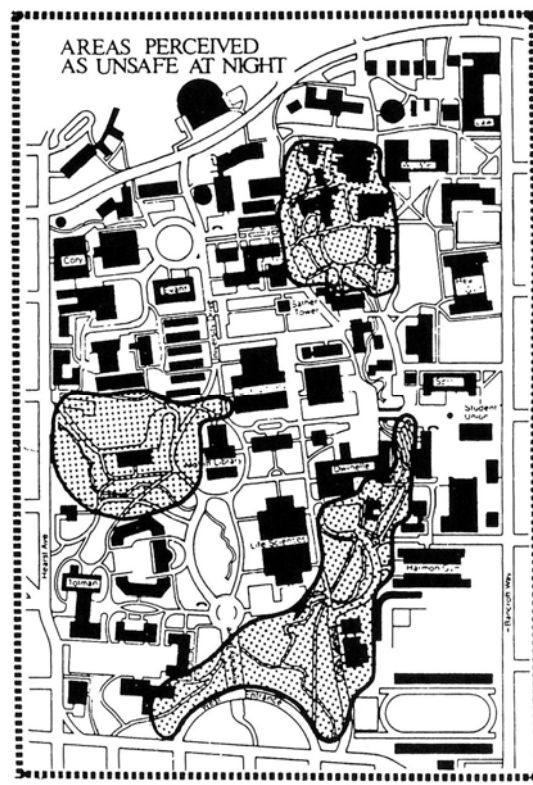
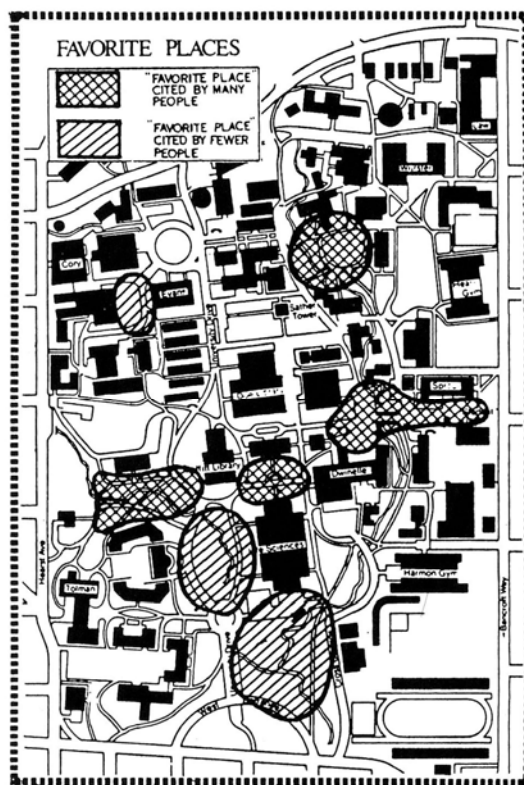
歩行者の主要な動線（移動に使う線）や休憩スペースをデザインするのに必要な情報が簡潔に示されている²⁾



どの人種の人々が、どの空間を利用しているのかを示した図³⁾

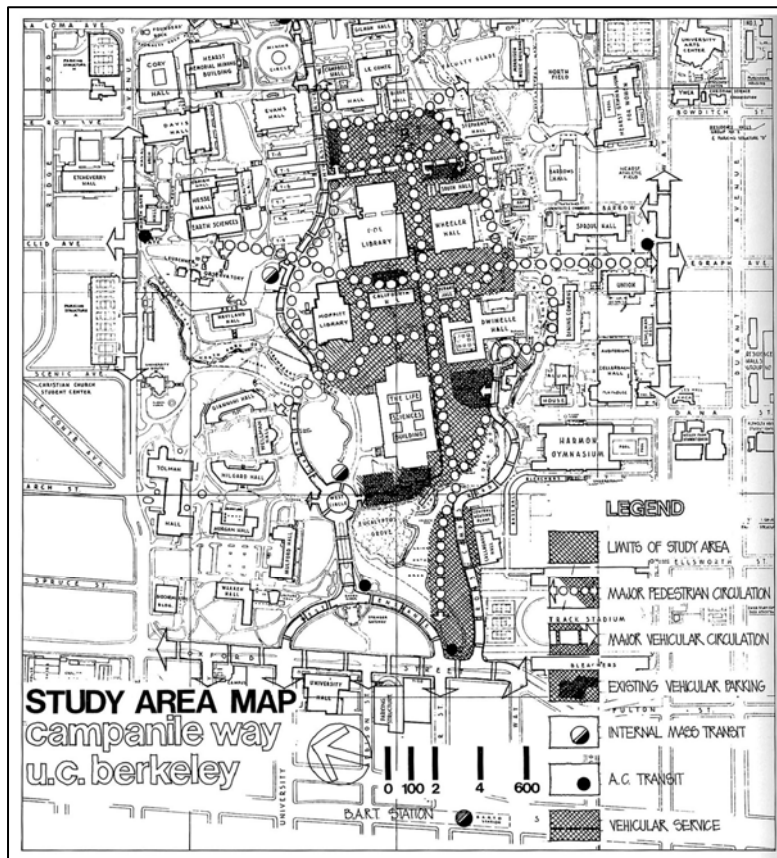


利用している位置を年齢グループ別に示した図⁴⁾

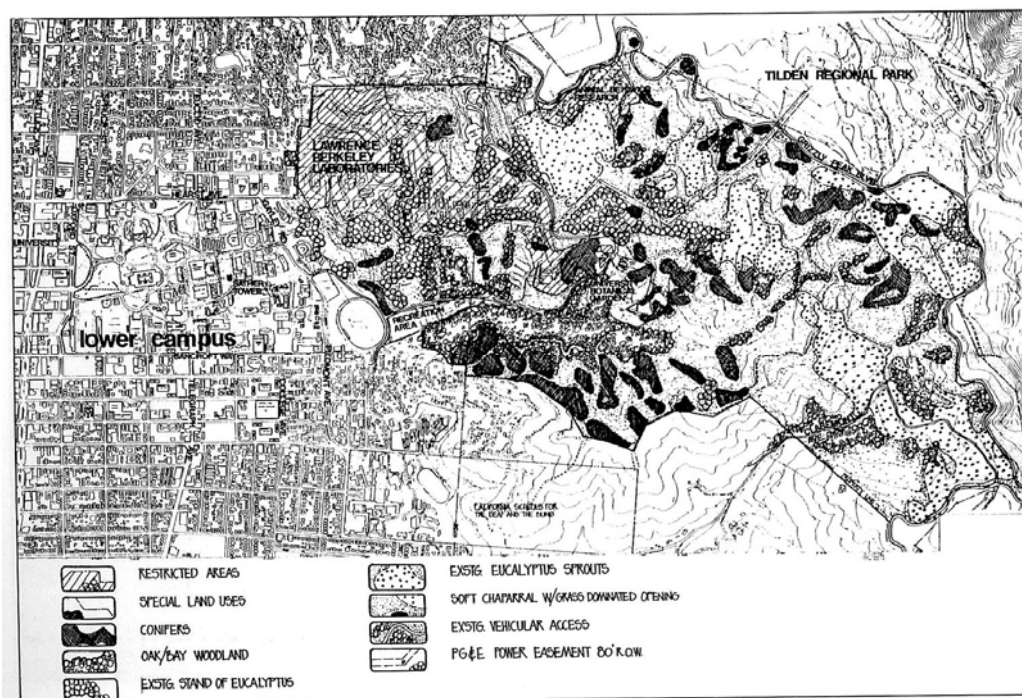


(左) 大学キャンパスにおいて学生に好まれている場所を図示したもの
(右) 夜間に危険な場所であると認識されている場所を図示したもの⁵⁾

3. Garrett Eckbo による敷地分析の例⁶⁾

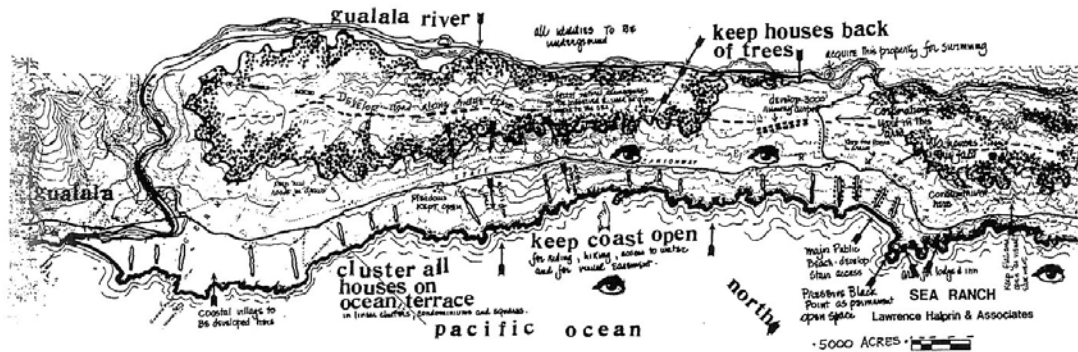


大学キャンパス内の歩行者や車両の動線（circulation）とバス停や駐車場の情報を図示したもの

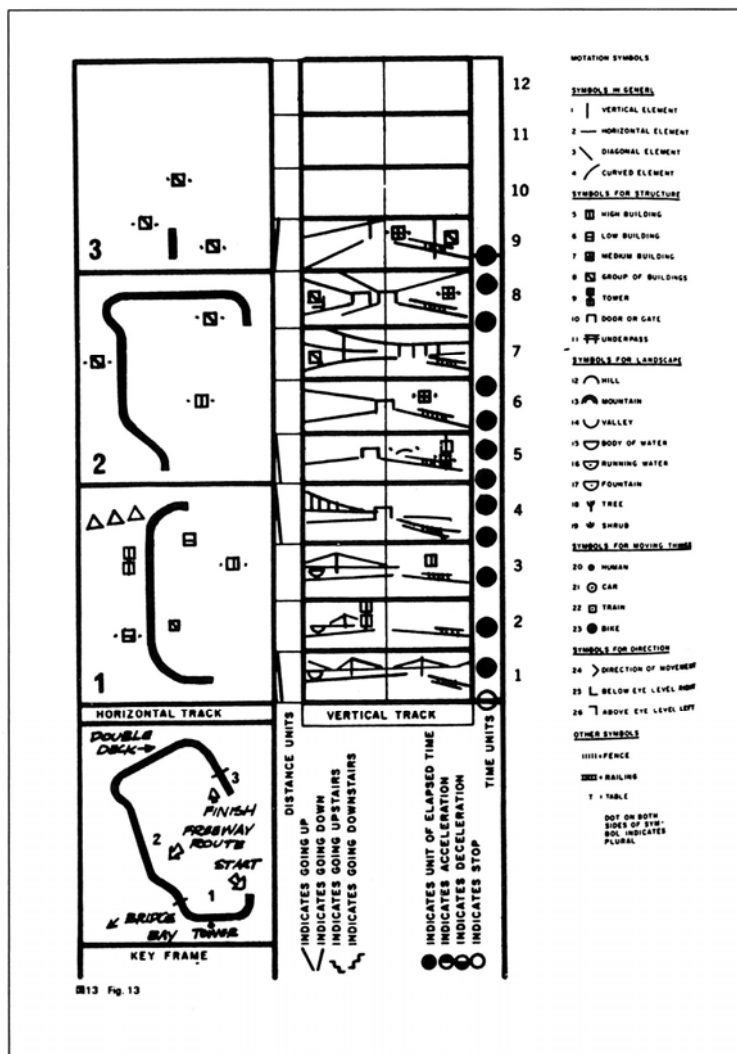


大学キャンパス周辺の現存植生について図示したもの

4. Lawrence Halprin による敷地分析の例

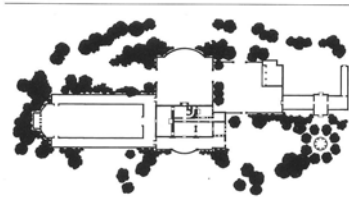


Sea Ranch という美しい海岸線の続く地域において住宅開発を計画した際の敷地分析の例
目のマークや矢印、タイプの文字が Halprin 独特の感性を表している。⁷⁾

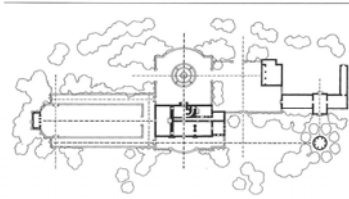


移動にともなう景観の連続的な変化が抽象的に表現されている。
左側は平面図、右側は景観が変化する様子を記号を援用しながら示している。⁸⁾

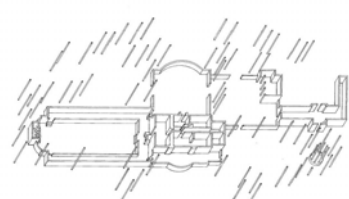
5. Reuben Rainey による敷地分析の例 ⁹⁾



樹木の配置によって生まれる空間を分析した図

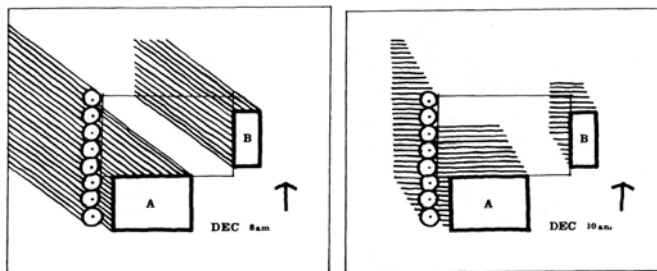


軸線を分析した図



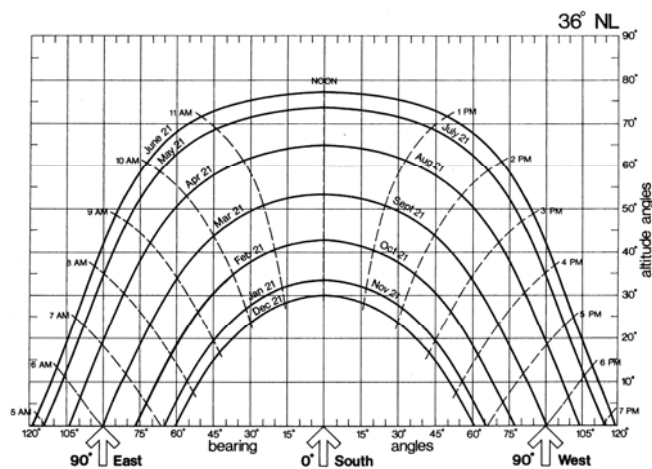
樹幹や壁といった垂直方向の要素の配置を分析した図

6. 日影図による敷地分析の例



Michael Laurie による作図 ¹⁰⁾

一年間のうちの任意の日時を設定し、建物や樹木によって作られる影の範囲を調べる。
植栽計画や休憩スペースのデザインなどさまざまな場面で重要な情報となる。



北緯 36 度の地点における太陽の軌跡（方位角および高度角） ¹¹⁾

引用文献

- 1) Laurie, M. (1986) An introduction to landscape architecture. Prentice-Hall, Inc., p.133.
- 2) Marcus, C.C. and Wischemann, T. (1998) Campus outdoor spaces. In: People places (eds. Marcus, C.C. and Francis C.). John Wiley and Sons, Inc., p.180.
- 3) Marcus, C.C., Watsky, C.M., Insley, E. and Francis, C. (1998) Neighborhood parks. In: People places (eds. Marcus, C.C. and Francis C.). John Wiley and Sons, Inc., C-12.
- 4) Marcus, C.C. and Francis, C. (1998) Post-occupancy evaluation. In: People places (eds. Marcus, C.C. and Francis C.). John Wiley and Sons, Inc., C-62.
- 5) 前掲書 2) , p.192.
- 6) 都田徹・中瀬勲 (1990) ガレット・エクボ：ランドスケープの思想. PROCESS:Architecture, 90: p.106.
- 7) Walker, P. and Simo, M. (1994) Invisible gardens: the search for modernism in the American landscape. MIT Press, p.162.
- 8) Halprin, L. (1966) Freeways. Reinhold, 160pp.
- 9) Rainey, R.M. (1993) “Organic form in the humanized landscape” : Garrett Eckbo’ s *Landscape for Living*. In: Modern landscape architecture: a critical review (ed. Treib, M.). MIT Press, p.184.
- 10) 前掲書 1) , p.197.
- 11) Harris, C.W. and Dines, N.T. (1998) Time-saver standards for landscape architecture: design and construction data. McGraw-Hill Publishing Company, Section 220-10.